

障害のある人のゆたかな地域生活の実現を！

よさのうみ福祉会広報紙



福祉よさのうみ

第90号

2016(平成28)年3月1日

発行 ■ 社会福祉法人 よさのうみ福祉会

〒629-2314 京都府与謝郡与謝野町字岩屋600-6

URL <http://www.yosanoumi-fukushikai.or.jp>

TEL 050(3532)0601 FAX 0772(43)0606



孝介へ

「孝介 成人おめでとう」

平成七年八月六日に兵庫県豊岡病院にて3,320gで生まれた君は、これまで色々困難にあいながらも平成二十七年八月六日に二十歳になりました。その間、いろいろなことがありましたね。

小学校一年の時、自転車に乗る事が出来る様にと幾日も幾日も二人で練習しました。そしてある日、後ろの荷台を持っていた手を離し、自力で乗る事の出来た時の後姿を見た感動は今でも忘れる事は出来ません。

中学校生活では、職場体験での思いを皆の前で堂々と発表した経験は、プレッシャーというものを初めて感じ良かったと思います。クラブ活動では皆と一緒に「勝つ」事に一生懸命努力した事も良い経験になったと思います。

支援学校では、集団生活の礼儀を教えて頂き充実した生活だったと思います。ぶち合わせ太鼓では地域活動としても頑張り、陸上では全国大会への出場など額に汗する場面が数多く見られとても感動的でした。

今後も地域の人、職場の方々にお世話になるとは思いますが、自分の力を発揮し何か人の為に頑張れる様な男になって下さい。今後でも応援して行きますので一步一步 少しずつでも良いので成長して下さい。

最後に おじいちゃん、二人の妹、お母さんを今まで通り大切にして下さい。

「本当に成人おめでとう」

父

当日、お父様より孝介さんに送られたメッセージを掲載させていただきました。

それぞれの仲間と思い思いに!!

ろむ

いちご会(自治会)主催新年会



毎年恒例となっている新年会を二月二十二日三河屋さんで行いました。

この日のためにいちご会メンバーは、何度も話し合いを行い、どんな新年会にするかの内容の検討や飾り作りなどの準備、役割を決めるなど中心となっていました。

当日は、家族の方々にも参加していただき、和気あいあいと楽しく過ごされました。自治会長の挨拶から始まり、各班の紹介・出し物、そして美味しい会食。その後は、皆さんが楽しみにしているカラオケ大会です。曲に合わせて踊ったり、家族の方とのデュエットもあり、大盛り上がりでした。

年に一度の新年会は、家族の方々との交流や一緒に楽しめる貴重な時間です。これからも、毎年続けて行きたいと思っています。

支援員 西垣 幸子



新しい年が明け、作業所が始まった一月七日に仲間の会主催で初詣と新年会を行いました。

初詣は与謝野町にある後藤神社へ行き「今年も良い年でありますように」とお願いをしました。

続いて数年間恒例になっている峰山町の三河屋さんに行き、仲間の会会長の新年のあいさつを受け、豪華なお弁当を食へ新年会を行いました。持ち込みをしたお菓子やジュースもいただきながら、仲間全員のカラオケ大会が盛り上がりました。和室の中央で踊る仲間もあらわれ、楽しい時間を過ごしました。

障害者を取り巻く情勢はいつも厳しいですが、そんなことにはめげないパワーを感じて新年最初の取り組みを終えました。

管理者 村上 健一

みねやま作業所 初詣・新年会

2016 新年のイベント特集

すまいる 春一番新年会



すまいる自治会では、新年会はみんなで「会食がしたい」という声を受けて、今年は初めての試みに挑戦しました。

二月四日〈立春〉の春らしい暖かな日に、初めての乾杯！、照れてる顔、満足顔、真剣な顔、いろんな顔に囲まれて新年会がスタートしました。

美味しいお弁当を堪能した後は、班で練習をした〈出し物〉です。他の班が何をするかは、観てのお楽しみ！寸劇に大笑いをしたり、ギターに合わせて歌ったり踊ったりと、大盛り上がりになりました。

初めての会食に「来年もみんなでご馳走を食べて新年を祝おう！」と、楽しい一日を閉会しました。

支援員 泉 洋子

恒例となっている班の出し物では、各班、歌や踊りを披露しました。特に、ここにご班ともみじ班合同チームが披露した「ヤングマン」では、皆さん音楽に合わせて身体を動かして、さながらクラブのような盛り上がり。大好評だった出し物披露の後、皆で「タイムをしながら「今年一年頑張ろう」とお互いに抱負を語りあいました。

つむぎ 支援員 寺内大輔



合同新年会

夢織りの郷 つむぎ・いきいき

今年もみんなでがんばるぞ!

ゆうゆう作業所 初詣・新年会

ゆうゆう作業所では、仕事始めの一月六日に網野神社にお参りし、今年も健康で作業所に通所できるようにお願いしました。

恒例、新年会は毎年丹後町内の旅館で行っています。今年は「はしうど荘」さんにお世話になり、豪華な昼食をいただき、仲間の会が準備した「福笑い」「ビンゴゲーム」を大いに楽しみました。

管理者 堀江正己



年明けの一月六日に峰山の金毘羅神社にみんなで初詣に行きました。

恒例になったみんなでの記念写真。笑顔あふれる素敵な写真になりました。

今年一年、この笑顔が続くように、より楽しく充実した一年になるように、心新たに新年を迎えることが出来ました。

管理者 山口高志

～今年も1年 がんばるぞ!!～



初詣 峰山共同作業所



放射能汚染廃棄物が野積にされている

研修3日目、私たちはバス5台に分かれ、時間間隔を開け福島第1原発事故に伴う東日本大震災から5年が経過した「被災地視察」に参加しました。

皆さんは1市4町2村(南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、飯館村、葛尾村)の中に、現在なお人が住めないといわれる「帰還困難区域」が存在している事をご存知で

東日本大震災「わすれない」支援活動へ

2016年1月29日～31日きょうされん第19回経営管理者総合研修会が福島県で開催され、その3日目に「被災地視察」が行われました。当法人から参加した管理者を代表し、2名のレポートをご紹介します。

東日本大震災から5年
「わたしたちは忘れない」

すか。またそれ以外にも「居住制限区域」が多く存在しています。放射線量が高く人の住めない町、今なお閉鎖された道、今だ5年前のあの日のままの町並みを見た私たちは、言葉なく、ただその光景を胸痛く見ているだけでした。

福島県は福島第1原発の爆発に伴う放射能汚染の目に見えない恐怖とのたたかいが、「あの時と同じ状況」で今も続いています。原発に伴う避難者が現在も6万2千人おられ、その多くが県外避難をされています。「関連死」問題も深刻です。

また中間貯蔵施設の場所が見つからず、見通しが立たない中、いたるところに野積みされたままの膨大な「放射能汚染廃棄物」仮置き場の問題も深刻です。

私たちは福島を「忘れない」「つながっていく」支援の大切さは、国民的課題である事を痛感させられる、貴重な視察となりました

【ろむ管理者 奥田茂樹】

きょうされん第19回経営管理者総合研修 プログラムのご紹介

2016/1/29(金)～31(日)

- 1日目 1月29日(金)** -----
- 基調報告 西川茂氏(きょうされん副理事長)
 - 仲間の報告 「自分らしい暮らし・自分らしい働き」
きょうされん福島支部会員事業所
 - 特別報告1 「社会福祉法のここが問題、社会福祉事業をとりまく問題」
 - 特別報告2 「東日本大震災から5年～わたしたちは忘れない～」
- 2日目 1月30日(土)** -----
- 第2期 若手施設長・管理者研修修了式 「共にはばたこう」
 - 記念講演 「どこへ行く日本と日本経済、新三本の矢は何をめざす」
金子勝氏(慶應義塾大学教授)
 - スペシャル講座 「T4作戦 ドイツ障害者虐殺の史実」
斎藤なお子氏(きょうされん副理事長)
 - シンポジウム1 「民主的な経営にとっての共育ちとは」(ワークセンター花音 管理者 平井が
シンポジストとして登壇)
 - シンポジウム2 「地域と向き合って、わが法人は何をなすべきか」
 - オプショ ン NHK Eテレ シリーズ戦後70年“戦争と障害者”放映
- 3日目 1月31日(日)** -----
- 被災地視察

「ふるさととは
遠きにありて思ふもの
そして悲しくうたふもの」

今回の視察は国道6号線を北上するコースとなりました。JR常磐線富岡駅付近は、津波で被災した商店街はそのまま、旅館には立ち入り禁止のロープが張られまさに廃墟です。福島第1原発付近の帰還困難区域では、いたる所にバリケードが設置され侵入を阻止しています。国道沿いの田には除染廃棄物の黒いコンテナバックが積まれています。



放射線量計



流された富岡駅舎跡

これが現状ですが、今の日本にこのような地域があること自体素直に受け入れることができません。冒頭の詩は、帰郷した作者室生犀星が、本来あたたかいはずのふるさとで冷遇され、もう居場所はない、帰るところはないのだと断念し東京へ戻った時のことを謳ったものだといわれています。ただ単に「故郷に帰りたいなあ」と遠方の故郷を懐かしむ詩ではないのです。『帰還困難区域』という言葉や現状の「冷たさ」からこの詩を想起してしまいました。

ああ、ここまで書いてもう「ですます調」では書けなくなりました。以下、支離滅裂・・・
コントロールできない物をコントロールしようとしたらあかん。電気だけ作ればよい。廃墟をつくってどうする。廃墟をつくる電源は要らない。なにと引き換えに何を得的のか、得たいのか。どこに、何に、誰にぶつけばよいのか。

青い空、さわやかな波音が聴こえる。海に向かって「もう勘弁してください」とつぶやいた。
遠くに見える白い建物に「ええかげんにせえ」と心の中で叫んだ。

【すまいる 管理者 杉本正和】

第9回 京都市 子育て支援表彰 を受賞

核家族化や少子高齢化が進む中、子育てをめぐる環境は大きく変化しています。

京都市は、次代の社会を担う子どもたちが健やかに生まれ、育つ環境を社会全体で整備するため、他の模範となる子育て応援に積極的に取り組む企業・団体を、3つの部門（1. 職場環境づくり部門、2. 施設づくり部門、3. 地域貢献部門）で選考のうえ毎年表彰し、その取り組みをホームページ等を通じて広く紹介されてきました。

本年2月10日、第9回目の表彰式が行われ、よさのうみ福祉会の青木理事長が出席し、職場環境づくり部門の表彰状を京都市知事から受理しました。

福祉会は、従来から育児・介護休業法ほか法令を遵守し、育児休業、短時間勤務制度、子の看護休暇などの制度について国の基準を超えて制

度化し、多くの職員がこれらの制度を活用し、子育てと仕事を両立してきました。昨年8月には、京都市ワーク・ライフバランス認証企業に認証されました。

福祉会が今回の表彰で評価されたのは、①育児短時間勤務の延長（国の制度は3歳までに対し、子が小学校就学まで延長）②4法人連携で進める「やすらの里」内に、法人職員誰でも利用できる事業所内包囲所を設置していることです。

福祉会では、過去9年間に、育児・介護休業をのべ16人の職員が利用し（正規12名、契約4名）、全員が職場復帰しています。これからも、若い職員が子育てしやすい職場環境づくりに一層努力します。



京都市からいただいた表彰状

法人スタッフ研修会

よりよい支援につなげるために

教育研修委員 糸井公美

2月5日、講師にエイデル研究所より君嶋信子氏をお迎えし、福祉教育研修委員会主催のスタッフ研修を行い、18名が参加しました。

本研修は、昨年度のアンケートに基づき、要望の多かった精神障害の方とのコミュニケーションのとり方・支援方法を中心に、障害の有無に関わらず全ての人に当てはめることができるICF（国際生活機能分類）の基本的な考え方、また障害種別と特性を知りより良い支援に繋げるために2015年度福祉会の研修計画書に基づき実施しました。

□□全体像を捉えることの

大切さを学ぶ□□

午前は、「ICF（国際生活機能分類）の理解」と題して講義がありICFを用いた模擬事例検討を行いました。ICFの考え方は、「生き

ることの全体像」を捉え、心身機能・身体構造（生命）⇄活動（生活）⇄参加（人生）の3つを中心に環境因子（人的環境や制度、社会の意識など）や個人因子（価値観や個性）が相互に双方向に関連しています。支援を行うことでどのように生活や人生の幅が広がっていくのかを考えて



グループ発表の様子

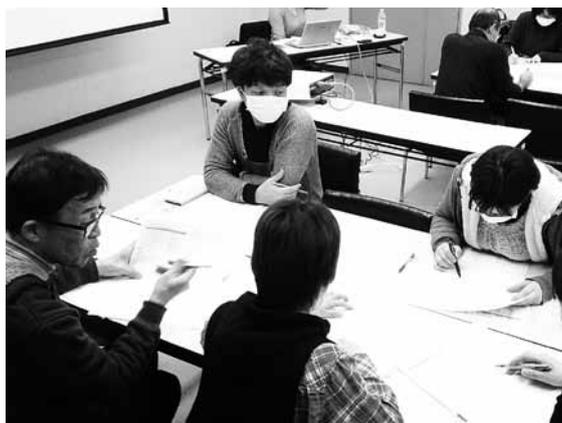
いきます。

個人ワークでは共通の事例に対し、各項目にどのように当てはめていけばよいか悩む姿が見られました。グループワークでは、それぞれの職種の視点から個々の考えを発表し、たくさんの議論がなされていていました。君嶋氏は、こうでなければならぬという正解はないということをお前置きされ、ICFの考え方にあっては、チームで支援する支援者が共通理解のもと支援していくことが重要だと強調されました。

□□ICFの視点を活かし

グループで討議□□

午後の模擬事例検討においても午前のワークをもとに広い視野で支援のあり方についての意見が出され、異職種であっても、当事者を想う気持ちや個人の知識、視点が収集され、



グループワークでは、個々の考えを発表

非常に熱く語られる場面がありました。グループ討議の後も熱心に各グループの発表に耳を傾け、非常に密度の濃い時間を過ごしました。

“わたしにはこんな夢がある！” “こんなことがしてみたい！” という思いは誰にでもきつとあるはずです。皆さんの側におられる仲間にもどのように向き合い、支援をするかでの生活の幅は大きく広がります。障害がありながらも、ねがいやおもいを叶えるにはどのような支援が必要か、改めて考える良い機会となりました。

バリアフリー ユニバーサルデザイン 功労者表彰

昨年末、地域共生型福祉施設（やすらの里）整備協議会が、内閣府より「バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰（内閣府特命担当大臣優良賞）」を受けることになり、12月24日に東京都永田町の合同庁舎でおこなわれた表彰式に、やすらの里運営協議会代表のやすら苑施設長とワークセンター花音管理者が出席し、加藤勝信内閣府特命担当大臣より表彰状を授与されました。

この表彰は、高齢者・障害者・妊婦や子ども連れの人を含むすべての人が安全で快適な社会的な生活を送ることができるよう、ハード、ソフト両面での推進と普及を目的とするためにおこなわれているもので、今回、全国都道府県からの推薦の中から、内閣総理大臣表彰1件、内閣府特命担当大臣優良賞4件が選ばれました。

やすらの里の授賞理由としては、「障害のある人が清掃や給食の下ご

しらえ、配食の仕事をしており、高齢者と交流する機会にもなっていること、地域交流室において町の子育て支援センターが開設され、高齢者・障害者・乳幼児と保護者が安心して交流できる施設として運営されていること」が上げられています。

このようなやすらの里の開設と運営は、4法人のみならず、与謝野町並びに京都府をはじめとする行政と、地域の方々のご支援・ご協力があつてこそのものであります。開設して丸3年を迎えたやすらの里が、今後いっそう「地域共生型」の意味を深め、地域の中での役割を果たしていきたいと思ひます。



表彰式での記念写真

【ワークセンター花音管理者 平井弘美】

岩滝ホーム・交流スペース 完成まであとわずか…

2016年5月に開設予定の、グループホーム・交流スペースの工事が順調に進んでいます。今年は雪が少なく助かります。

現在 外壁工事もほぼ終了し、内装工事に入っています。毎週、建設会社、設計士と打ち合わせをしています。建物が仕上がる様子を一週間毎に見ていると、少しずつイメージがわき、春から始まる生活に夢が膨らみます。

地域の方からも「カフェやリサイクルショップができれば、行ってみたい」という声を聞かせていただいています。障害のある人の住まいの場だけでなく、地域の方にも喜んでいただける、ほっとできる場所になればと思っています。

資金づくりも地域の方、関係者家族、多数の方から寄付をいただいています。目標到達にはまだ至っていませんが、多数の方のご厚意に感謝し期待に込められるよう気持ちを新たにしています。

【つむぎ管理者 尾上真由美】

夢いっぱいフリーマーケット

☆日時 2016年4月3日(日)
雨天順延 4月17日(日)
☆場所 野田川わーくぱる横広場
10時～15時

☆掘り出し物がどっさり
模擬店もあります



完成へむけ外構工事中

元理事長 戸田晋様を偲んで

理事長 青木一博

去る1月30日、元法人理事長の戸田晋様が入所先の特別養護老人ホームで91歳の生涯を終えられました。2月1日の通夜、2日の葬儀告別式には、遠く名古屋市や東大阪市からの参列者をはじめ、戸田さんと関わりがあった多くの方々が参列され、別れを惜しみました。

戸田さんは、京都府北部地域の労働運動、平和・民主運動はじめ、障害者運動を牽引し、よさのうみ福祉会においても理事長として大きな功績を残されました。その概要を紹介いたします。

戸田さんは、娘さんが小学校の障害児学級に入ったところから、障害児親の会に参加し、他地域、他団体に呼び掛けて1960年代の養護学校設置運動において大きな役割を果たされました。京都府北部の行政や京都府に対し請願・陳情し、家庭訪問や入学申請書運動などが国の教

育史上類のない運動を展開されました。長い運動の結果、1968年2月、京都府が養護学校の設置を正式に決定した証として、当時の蜷川京都府知事は戸田さんの手を握り、「人間を大切にすることはこういうことだ、と分かってもらえる立派な学校を建てましょう。」「学校は皆さんが作るのです。行政はお手伝いをするだけですよ。」と言われ、府立与謝の海養護学校設置が実現しました。

さらに、養護学校開校後は、京都府北部障害者問題連絡会（北障連）の会長として障害者の働く場づくりの運動を組織し、京都府下で初めての「おおみや共同作業所」、「峰山共同作業所」、「宮津共同作業所」などの開設をはじめ、障害児教育の充実、スポーツ・文化の保障など、障害児者の願い実現のため、先頭になって取り組まれました。「宮津共同作業所」の開所から13年間、運営委員会

代表を務められました。続いて、障害のある人や家族の切実な願いを実現するため、社会福祉法人よさのうみ福祉会設立に参加され、1980年の法人設立から2006年の勇退まで、26年間の役員のうち24年もの長きにわたり理事長の要職に在られました。その間には、障害者労働生活施設づくりにおける地域理解、行政折衝、自己資金づくりなどの様々な困難がありました。戸田さんの抜きんで、指導性と関係者の努力によって、1997年、14年間の設置運動が実現、夢織りの郷を開設することができました。

会議や集会での戸田さんのあいさつや報告は、知識と経験に裏付けられた深い内容でありながら、聞くものを納得させるわかりやすさがあり、「戸田節」として多くの人を魅了しました。交流会後の二次会では、

若い頃の青年団活動や歌声運動で鍛えたほれぼれとするような美声を披露してくださいました。

戸田さんが関係者と共に設立し、理事長として長年先導されたよさのうみ福祉会は、設立35年を経た今日、21か所の事業所で300人を超える職員が障害のある人や家族を支えて働く組織になりました。しかし、障害者権利条約が示すべき姿には程遠い現実が横たわっています。

私たちは、あなたが口癖のように言われていた「障害者の人権は、平和な社会でしか守られない。」という言葉を心に刻み、障害のある人たちが安心して当たり前に暮らせる地域を作るために、力を尽くすことを、ご霊前にお誓いします。長い間本当にありがとうございました。どうか安らかに眠りください。

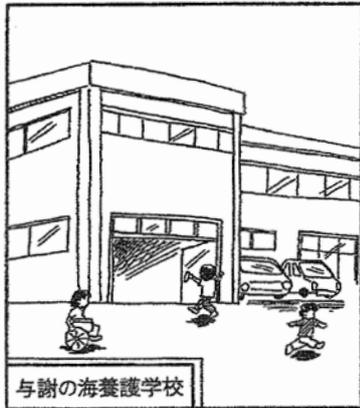
※2007年8月1日発行「福祉よさのうみ第55号」の「連載 福祉をつくりだす人々」（その25 戸田晋さんの巻）に掲載2ページの内、後半ページを裏面に再掲載します。

下の記事は、2007年8月1日発行「福祉よさのうみ第55号」に掲載の「福祉をつくりだす人々」(その25 戸田 晋さんの巻)の2頁目を抜粋したものです。

(5) 2007年8月1日

福祉よさのうみ

第55号

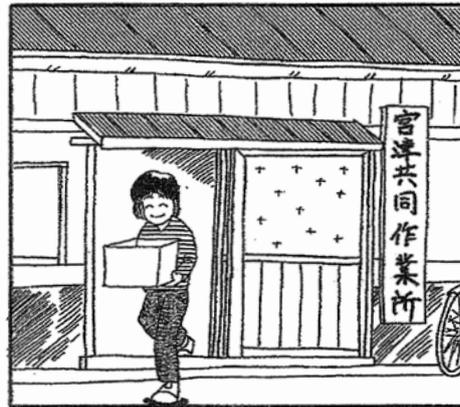


娘が小学校の青木学級(特殊学級)に入った頃から、障害児親の会に参加し担任会と一緒に話し合ったり先進地を見学したりしながら、他地域、他団体にも呼びかけて養護学校設置要求運動を始めました。

養護学校設置連絡協議会を結成し、京都市や北部の行政に請願陳情を繰り返して、障害児者を守るで謝内後集会(北部集会)をしたり、家庭訪問や入学申請書運動などをして、重度重症であつても入れる京都市と謝の海養護学校を獲得しました。



与謝の海養護学校設置運動に大きな役割を果たした「障害児者を守る京都市北部集会」の実行委員を存続・発展させて、障害児教育の充実、スポーツ文化の保障、労働生活・権利等の保障をめざす「京都市北部障害者問題連絡会」(北障連)にするこゝとなり、初代会長として障害児者の願い実現のため先頭に立ち取り組んできました。



卒業後の進路保障についても北障連が中心になり、「守る会」や「親の会」で北部の一市十町に請願・陳情し、次々に共同作業所をつくり出した。宮津でも5年3月に開所し運営委員長をつとめた。

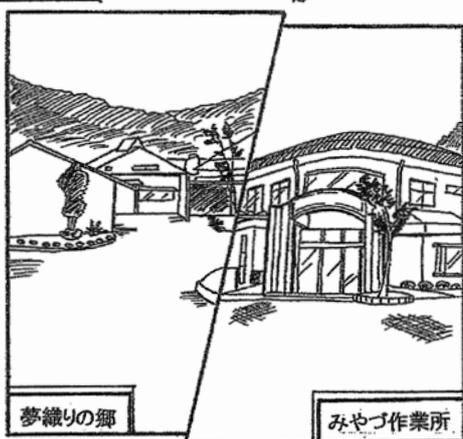
しかし、無認可の共同作業所では「も運営が大変難しく、運営委員や職員・関係者がアルバイトしたり、バザーや資源回収などをしなければ運営できない状況でした。

共同作業所の発展と生活施設なども設置できる社会福祉法人を設立することになり、その法人の理事の期めから理事長に就任しました。



障害児者とその家族の願いを大切にしながら、その時々課題を実現するため常にその中心となつて取り組んできました。そして現在、多くの関係者や行政の協力を得て、障害児者の生活と権利を守る多くの施設や事業をつくりだしました。しかし、「障害者自立支援法」によつて、これまで営々と築いてきた障害者福祉が、大きく崩されました。

利用者にも事業者にも新たな負担、困難な課題が出てきています。



ご寄付御礼

みなさまからのご寄付、誠にありがとうございます。

来年度から運営を開始するため、建設が進められている岩滝ホームにも、引き続き、多くの方からご協力をいただいています。

2015年12月18日

2016年2月15日

(順不同・敬称略)

- 入垣栄一朗 武内悟 吉田悦男
- 清水雅子 今井俊行 和久泰治
- 足立千鶴子 畠山仁 成松勤子
- 日本キリスト教団丹後宮津教会
- 一井紀江 井上正則 田中祇子
- 宮城正幸 中西光昌 細井欣俱
- 橋本亜佳里 的場治道 濱中博
- カトリック宮津・与謝共同体
- 立川智浩 沼田多津子
- 小谷 美和子 大槻由香里
- 広野久美子 山本ふみ子
- 飯井みどり 小谷正二郎 大野矩子
- 新田浩 一念寺仏教婦人会
- 佐藤由加里 水谷 良江 芦原誠
- 大谷まち子 中村豊実 土井靖子
- 田中卓雄 池邊聡 田中清三郎

福社会 リレー随想



岩崎 圭史

ホームすみれ 管理者

少し振り返ってみました

私が障害者福祉の仕事を初めて知ったのは2001年10月、夢織りの郷に職員として採用された時でした。以前の仕事は民間企業のサラリーマン、右も左もわからずにこの世界に飛び込んだ、そんな私の最初の仕事は重症心身障害者といわれる最重度の利用者の方の担当班の職員でした。言葉でのコミュニケーションが取りにくい人たちの思いをどのようにしたら感じ取れるのか、感じ取った夢や希望をどのようにすれば形にできるのか、今思えば障害の重い人たちと過ごした時間は、私が福祉の仕事を続けていく上での教科書のようなものだったと感しています。

そんな私が今働いているのは障害のある人たちが暮らすグループホーム。いつも「まだまだ充分じゃない。」と思いつながりながら仕事をしています。障害のある人たちの生活を支える事業所や制度が充足しているとは言えない中、「この子より一日だけ長く生きたい。」という数十年前変わらない家族の思いが今でもあります。

職員になったばかりの頃とは業務内容も立場も変わり、あの頃学んだ教科書には載っていない事もたくさんあります。悩み、迷う事もしばしばですが、何かの縁があって足を踏み込みそのまま抜けられなくなっているこの世界。「やっぱり楽しいんだろなあ」と思いつつ、この記事を書いています。

…次号は峰山共同作業所 山口高志です。

編集後記

先日「アンガーマネジメントについて」怒りの感情と上手に付き合う技術」と題した研修を受ける機会を得ました。「アンガー」とは聞き慣れない言葉ですが、「イライラや怒りの感情」という意味らしいです。

福祉職場の業務は種別や職種に関わりなく、常に人と人の関わりが関係している仕事であり、利用者と十分な意思疎通ができないとき、あるいは職員間の意見に相違が生じたときに心理的に困難を感じる時があります。それをうまくコントロールする技術がアンガーマネジメントだそうです。たとえば「深呼吸をする」「外の景色を眺める」だけでもクールダウンすることが出来ます。

ノーベル物理学賞を受賞された中村修二さんは「怒りがモチベーションだった。怒りがなければ何も成し遂げられなかった。」と述べられました。小生もこれに習いアンガーな思いをマネジメント(後悔しない)し、モチベーション(意欲)を高め、より良き実践に臨めるようにしたいと思います。(隆)



New arrivals

key chain
hashi-bukuro
cookies



Minekyo

峰山共同作業所

TEL : 0772-62-4823 / FAX : 0772-62-5805

Mail : minekyo@yosanoumi-fukushikai.or.jp

〒 627-0211 京都府京丹後市峰山町杉谷 851-3

峰山共同作業所では新製品の開発に力を入れていきます。最近はいんコンの2階にあるくりくりでも販売できるので季節を先取りして新しい商品を考えてはなりません。

一昨年立ち上げた木工班はこれまでいろいろな商品を開発してきましたが、バレンタインデーには、ウッドキーホルダーを作成しました。木目の美しさを生かし、仲間が仕上げの磨き作業をおこなっています。

縫製班はレザーキーホルダーを作成しました。よそが作っていないもの、目新しいもの、仲間が携われるものと考え、皮製品にチャレンジしました。風格のある本革、柔らかくて色味のきれいなフェイクレザーと特長を生かして作りました。

クラフト班ではエコでおしゃれで気軽に持ち運べるものと考え、箸袋を作りました。バッグからさらりとマイ箸を取り出す所作も身についていて、入れ物にもその人らしさがある、そんな箸袋ができました。

4月からはクッキーのパッケージが新しく生まれ変わります。クッキーは峰山共同作業所の中心商品ですが、発売以来価格も包装も大きくは変えてきませんでした。しかしクッキー

作業をさらに発展させていくために、コンセプト、パッケージ、価格を2年間かけてみんなでもう一度考え直しました。

まず「たくさんの方の暮らしのそばで出合いがひろがるお菓子、地域の方とつながるお菓子、デパートで売れる高級感のあるお菓子」をつくりたい、という思いをみんなで確認しました。次に仲間全員でワークショップ形式でいろいろな絵を描き、その中からデザインを決め、シールや箱を作りました。新ブランドの名前も、職員会議で候補をあげ、仲間にもどれがいいか投票してもらいました。

新しい名前は「Bon Bon Studio」(ボンボン ステューディオ)、「意味はフランス語で「おいしい素敵な工房」です。

4月からは価格も改訂しパッケージも変わりますが、中身はこれまでどおり国産小麦や琴引きの塩などの厳選素材を使ったおいしいクッキーやケーキです。これまで以上のご愛顧をたまわりますようお願いいたします。

【山下美佐子】